

風だより

Contents

- | | |
|--|-------------------------------|
| 02 湯らっくすコンサートに参加して | 05 平成23年度第3回院内研修会 |
| 03 Dr'sコラム
ーリカバリーについて考えるー
第2回佐賀県診療情報懇話会報告 | 06 連携室通信・長寿祝い |
| 04 オリーブの会開催報告 | 07 第48回 佐賀県精神保健福祉大会・表彰 |
| | 08 診療担当医師一覧表・友朋会の理念 |

湯らっくすコンサートに参加して

作業療法士 池田亜須香



平成23年9月24日嬉野公会堂にて第3回湯らっくすコンサートが行われました。湯らっくすコンサートとはバリアフリー委員会主催で健常者・障害者、プロ・アマチュアが音楽により融合しようという趣旨で開催されているものです。今回はデイケアのメンバー(Happy Field)と西1病棟の患者様で音楽療法参加者(Sun Flower)が参加しました。私は西1病棟の音楽療法を担当しており、スタッフとしては初の参加となりました。

2ヶ月ほど前から準備を始めました。メンバーへ出演するかの話をするのと皆前向きでぜひ出たいとのことでした。楽器演奏ではなく物語に楽器で音をつけて描写

する『音絵』を行うことになりました。本は「うさぎのダンス」という絵本に決めました。イメージがつきにくいと思うので例を挙げてみます。「笑い声が聞こえてきました」という文章に合う楽器を考えます。鈴が良いという意見が出れば鈴を小刻みに揺らし笑い声を表現します。「草をかきわけて」という文章があればマラカスをサラサラと揺らしその様子を表します。このように物語に音を合わせていくのです。5分程の物語にボンゴ、ツリーチャイム、ギロ、太鼓等様々な楽器を使用しました。はじめは鳴らし忘れてたり違う所で鳴らしたりとなかなか合わなかったですが、徐々にメンバーの緊張感も増し、集中力も高まっていきました。「何ば着て行ったらよからうか」「テレビに映るとやろ？恥ずかしかねー」と思い思いに口に出されました。

当日は朝9時半から音楽室でデイケア、西1病棟合同練習を行いました。最後の練習とあって気合いも入りました。お互いの演奏を聴くのも初めてであり、「負けないように頑張らんば」という声も聞かれました。その後公会堂へ移動。実際のホールに楽器を並べてリハーサルです。初めて立つ舞台に緊張した面持ちでした。

コンサートは13時に始まり、まずは他の出演者の演奏を見学しました。管楽器での迫力ある演奏、盲目の方のピアノ演奏、中学生のブラスバンド部による演奏を間近で鑑賞しました。早めに舞台裏へ移動。出番を待つ間にも緊張して黙るメンバーや他の演奏に感心するメンバー、スタッフへ確認をするメンバー等過ごし方は様々です。

そして本番。まずはデイケアメンバーの演奏です。竹の楽器を使用し「秋の海」を表現されました。同時に叩く所もよく揃っており堂々とした素晴らしい演奏でした。そして西1病棟メンバーでの音絵「ウサギのダンス」です。私の語り、合図に合わせてメンバーが台本通りに楽器を鳴らしていきます。病棟スタッフやOTスタッフのお手伝いもあり指示を待つほとんど間違いなく行えました。メンバー皆が真剣な表情で行い、輝いて見えました。

入院生活の中でこれほど緊張したり、他者の演奏に心動かされることはないでしょう。今回、大勢の人の前で発表し賞賛されたことは、メンバーに大きな自信を与えたことと思います。また地域の活動へ参加でき、社会へ目を向ける機会にもなったと考えます。湯らっくすコンサートの趣旨通り音楽は健常者、障害者の隔たりにくく融合できたものと思います。



Dr'sコラム リカバリーについて考える



精神科 谷口研一郎

精神障害者の治療目標のひとつに、“リカバリー”という考え方があります。“リカバリー”とは、きちんとした定義や基準があるわけではありませんが、私の考える“リカバリー”とは『地域の中で、その人らしく生き活きと、主体的に生活すること』です。統合失調症や躁うつ病など、多くの精神疾患は決して珍しい病気ではないのですが、残念ながらまだ根本的な治療方法が見つかっていません。しかし患者さんやご家族は「治りますか？」と質問されます。そんなとき私はこの“リカバリー”という言葉キーワードに答えるようにしています。

“リカバリー”とは、そもそも自助活動から始まった概念のようです。つまり、治療目標は医療者、支援者から与えられるものではなく、『当事者自らが決めていくもの』だと考えられています。

では我々医療者、支援者に求められていることはなんのでしょうか？単に症状の改善だけではなく、偏見など、“リカバリー”を進める上で障害となるものを可能な限り取り除くことも必要でしょう。そしてなるべく多くの、良質の情報を分かりやすく提供し、当事者自らが選択することで、希望を持って、意味のある地域生活を送れるよう支えていくことでしょうか。

私はこれからも“リカバリー”について考えつづけていきます。

第2回佐賀県診療情報管理懇話会に参加して

診療録管理室 塩津 邦章



さる10月22日(土)に佐賀大学医学部に於いて第2回佐賀県診療情報管理懇話会が開催されました。この懇話会は、診療情報管理に携わる者の知識と技術の習熟・向上、会員相互の親睦を深めることを目的に、今年4月に設立されました。会長は当院精神科・谷口医師が、事務局は私が担当しています。現在の会員数は60施設、111名で、今回は県内外47施設から79名、遠くは鹿児島県・大分県からの参加もありました。参加職種も診療情報管理士のほか、医師、医事担当者、医療事務補助者、看護師など様々です。

今回の内容は、1) JMAT活動に参加した気仙沼巡回療養支援の報告、2) 新人診療情報管理士の活動報告、3) 診療情報管理室立

ち上げの課題に関するシンポジウム、4) 特別講演『診療情報管理をとりまく諸問題』(佐賀大学名誉教授・只野壽太郎先生)、5) ためになる講演・「精神疾患」シリーズ、「臨床検査」シリーズなど多岐にわたり、午前9時30分から17時までの長時間にわたって熱気のある会となりました。

来年10月には長崎との合同研修会も決まっています。今後さらに診療記録の質の向上を通して、医療の質向上に貢献していきたいと思えます。

家族心理教室

『オリーブの会』が開催されました!



医療福祉課 岩根可奈



11月5日(土)に当院のふれあい食堂にて、家族心理教室『OLIVEの会』を開催しました。第1回目である今回は、8家族にご参加いただきました。会ではまず、医師より統合失調症の病因や症状についての講義を行い、その後、2つのグループに分かれグループワークを行いました。グループワークでは積極的にご家族から相談したい事や困っていることを話していただきました。それぞれの病状、性格、家族歴は違いますが、ご家族同士で共感できる場所は多かったです。皆さんから「参加して良かった」という感想をいただきました。ご家族のお話はひとつひとつとても重みがあり、ご家族が患者さんを思う気持ちが伝わってきました。

ところで、会の名前にもなっている“オリーブ”は、1本の木では実をつけることができず2本以上を隣接して植えることで実をつけ、ノアの箱舟にも登場する平和の象徴とされています。今後、ご家族と患者さんが寄り添い、“リカバリー”と言う実をつけるために、継続して開催していきたいと思います。病気の理解を深め、ご家族自身もストレスを取り除き、患者さんとご家族が生活をともに楽しんでいけるような糸口が見つけられるような家族心理教室でありたいと思います。



平成23年度 第3回院内研修会

平成23年10月1日(土曜日)に平成23年度第3回院内研修会が行われました。今回は鹿島警察署から講師を招いた交通安全講習会のほか、医療安全、精神保健福祉・行動制限に関する研修などが行われましたが、ここではP'sプロジェクトに関する活動報告についてレポートします。

P'sプロジェクトは退院支援と地域生活支援、就労支援を一連の流れで行うものですが、今回の研修では退院支援部門から5題の発表が行われました。作業療法士からは料理教室を中心とした関わりから、26年にも及ぶ入院から地域移行を果たしたケースの紹介(スライド1)、病状の不安定な患者さまが多い慢性期の閉鎖病棟で、工夫を凝らして行われている小グループ活動の紹介(スライド2)、高齢者や陰性症状が中心の患者さまが多い慢性期病棟で行われた能動的活動の取り組みの紹介が(スライド3)。看護師からはLOCUSという多面的評価尺度を用いた地域連携バスの紹介と今後の課題の提示(スライド4)、退院支援部門と地域生活支援部門が有効な情報共有を行うことを目指したツールの開発に関する報告(スライド5)が行われました。いずれも日々の臨床の中で試行錯誤し、治療、ケア、連携の質を高める工夫がなされていました。これらを患者さまに還元し、友朋会は今後も、より良い地域医療・福祉サービス提供を目指していきたいと思います。“患者さまのために”

(スライド1)

まとめ

- ▶ 長期入院患者へ料理教室導入を試みた。
- ▶ 病棟・居場所が変わっても変わらない場所として安心感を与えた。
- ▶ 売り場を把握し買物はスムーズに、金銭感覚も身につけ、自炊への自信がついた。
- ▶ クールを決めず長期間繰り返し行なったことで般化しやすかった。
- ▶ 長期入院の患者さまへ根気強く関わることの必要性が示唆された。

(スライド2)

〔考察(小グループ活動)〕

密な関わりを持つ為や多様なニーズに応える為には各種小グループの導入。

全体活動に参加しない患者様や症状不安定な患者様に関わりを持つことが出来た。

関係の構築や退院援助につながった。病状変化の早期発見にもつながった。

(スライド3)

誕生会を受動的な活動から
能動的な活動へ

誕生会の中で患者を主体とした出し物を提案

5月：劇「しりなりべら」
8月：手話の歌、ダンス

(スライド4)

LOCUSとは・・・

- I 軸：自傷他害のおそれ
- II 軸：生活・社会機能
- III 軸：依存症
- IV 軸：A:回復環境 ストレスレベル
B:回復環境 支援レベル
- V 軸：治療回復歴
- VI 軸：治療参加

- 総合点数が低ければケアレベルは低く、総合点数が高ければケアレベルは高い
- リスクアセスメントなどに活用できる包括的な評価基準

(スライド5)



地域連携室通信

鮮やかで、私たちの目を楽しませてくれていた山々の紅葉も落ち着き、最近では木枯らしが吹きすさぶころとなりましたが、皆様いかがお過ごしですか？

今回の地域連携室通信は、第4回嬉野温泉病院健康教室のご報告をさせていただきます。

まだ残暑が厳しかった9月9日に、嬉野市社会福祉協議会で場所をお借りして嬉野温泉病院健康教室を開催いたしました。今回は当院の眞木心理士より「うつ病を知る、予防する」をテーマにうつ病の紹介やその予防、身近な人でうつ病では？と思われる方への対処方法等についてスライドを用いてわかりやすく説明していただきました。今回は嬉野町内だけでなく、塩田町の方も含めて32名の方に参加していただき、熱心に耳を傾けられる様子が印象的でした。

質疑応答ではうつ病の症状のひとつである不眠や睡眠薬の使用等について質問があり、吉本副院長よりわかりやすく説明していただきました。



会終了後のアンケートで、健康教室の開催について興味を持たれ、次回も是非参加したいという意見もいただき、私達も大変嬉しく思いました。

今後も地域のニーズに合った情報提供の場として健康教室を開催し、皆様が自由に意見交換できるような会になるように努めていきたいと思えます。

百寿の御祝

去る9月14日(水)当会に入院、入所しておられる方で今年度中(平成23年4月1日～平成24年3月31日)に百歳を迎えられる方々に嬉野市長が表敬訪問されました。



- 山口 ミス様/南3病棟…明治44年10月29日生
- 納所 チモ様/南西1病棟…明治45年 1月25日生
- 大久保スナ様/南1病棟…明治44年11月22日生
- 中島 イネ様/朋寿苑…明治45年 2月26日生
- 栗林キミヨ様/朋寿苑…明治44年 9月15日生

おめでとうございます。

これからもお元気で長生きして下さい。

第48回 佐賀県精神保健福祉大会

11月14日(月)に鳥栖市中央公民館にて開催されました第48回佐賀県精神保健福祉大会において社団法人佐賀県精神科病院協会の推薦により当会の中川龍治理事長が佐賀県の精神保健福祉事業功労者として佐賀県知事から感謝状を受賞されました。

また、青雲荘の橋爪彰博寮長が精神保健福祉協会会長より永年勤続の表彰を受けられました。



今回表彰を受けたお二人。左：中川理事長、右：橋爪寮長

中川理事長

平成2年以來、地域の精神医療に従事され、精神障害者の治療及び社会復帰や、認知症、児童思春期などにおいて精神科医療の提供に尽力された。

また地域における医療、福祉、行政、学校といった医療機関とのネットワークを構築し、連絡会議や研修会を開催され、その充実に努められている。

さらに、平成3年から約12年にわたり、保健福祉事務所の相談医をされたほか、平成7年から現在まで、福祉事務所の嘱託医として生活保護受給者の精神科医療に係る適性について判定を行っている。

また、スクールカウンセラー事業や適正就学指導委員会において専門立場からの助言等を行うなど、地域医療や精神保健福祉の向上に大きく貢献された。

活動功積の概要(大会冊子より抜粋)

橋爪寮長

昭和50年2月の入社以来、36年もの長きにわたり看護業務に精励され、精神障害者の社会復帰と就労支援に積極的に努力された。

また、患者や家族からの信頼は厚く他の職員の模範であり、後輩の指導にも熱心に取り組み、当院の人材育成に貢献された。

活動功積の概要(大会冊子より抜粋)

表彰

診療情報管理室の塩津邦章課長が日本精神科病院協会より永年勤続表彰を受賞されました。



診療科の紹介及び診療担当医師一覧表

*診療時間 ◎月曜～金曜

◎午前の部/8:30～12:30(第1土曜 8:30～12:30) ◎午後の部/13:30～17:00

※ただし、水曜、金曜の眼科外来は10:00より開始

*休診日/第2・3・4・5土曜、日曜、祭日、年末2日、年始3日間

*予約診療/待ち時間短縮のため、予約診療とさせていただきます。ただし、新患、急患の場合は随時受け付けます。

日曜診療は精神科第2、第4日曜の午前中に予約診療を行っています。

平成23年12月1日現在

診療科目		月	火	水	木	金	土	
精神科	(新患)	精神科一般	1 菅高	三根	谷口	富松	奥	担当医
			2 谷口/藤巻	吉本	菅高	奥	富松/藤巻	
		ものわすれ	1 吉本	松尾	田中	松尾	吉本	
			2 中山	中山	谷口	田中	松尾	
	(再来)	富松	田中	中山	吉本	三根	予約者のみ	
		松尾	谷口	奥	中山	菅高		
内科		榎	竹下	岡本	林原/榎	跡上	非常勤医師	
泌尿器科		倉富	江原	倉富	江原	倉富	倉富	
眼科		崎戸(13時～)		崎戸(10時～)		崎戸(10時～)		
歯科外来		奥川	奥川	奥川/山田	奥川	奥川	奥川(第1AM)	

*眼科の診療時間 ◎月曜日 午後のみ13:00～17:00 ◎水・金曜日 午前10:00～12:30 午後13:30～17:00

友朋会の理念 『患者さまのために』

基本方針

- 1 患者さま一人ひとりの立場になって、提供すべき医療・福祉を考え実践する
- 2 愛情のある医療・看護・介護・リハビリ・福祉を実践する
- 3 患者さまの退院支援・生活支援・就労支援において更なる向上を図る
- 4 芸術療法を実践する
- 5 治療空間としてアメニティーを重視する
- 6 地域に必要とされる医療を実践する
- 7 認知症への取り組みにおいて地域のリーダーとなれるよう努力する
- 8 児童・思春期の精神医学分野においてその専門性を高める
- 9 院内におけるチーム医療および地域の関係諸機関との連携を強化する
- 10 医療従事者として自己研鑽に精励する

職業倫理に基づく行動指針

- 1 患者さまの自己決定権を尊重する
- 2 患者さまが自己の情報を知る権利を保障する
- 3 患者さまがセカンドオピニオンを求める権利を保障する
- 4 患者さまに安全で質の高い医療を提供することに最善を尽くす
- 5 患者さまに医療的な説明を十分に行う
- 6 患者さまに治療に関する同意を確実に得る
- 7 患者さまの「基本的人権」を保障する
- 8 患者さまの尊厳を保つ
- 9 患者さまの終末期医療について理解を深め、その実践に努力する
- 10 患者さまの個人情報を守る



医療法人財団 友朋会

〒843-0394
佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙1919
電話:0954-43-0157
FAX:0954-43-3440
E-mail:info@yuhokai.com
URL:http://www.yuhokai.com/

- 嬉野温泉病院 0954-43-0157
 - 精神科デイケア・ナイトケアセンター 0954-43-0194
 - 老人デイケアセンター 0954-43-0233
 - 介護老人保健施設 朋寿苑 0954-42-2900
 - 友朋会介護サービスセンター 0954-20-2531
 - グループホーム 千寿荘 0954-43-0157
 - 就労支援センター 「希望」 0954-43-0249
 - 地域連携室 0954-43-0255
 - 小規模多機能ホーム 「孝心の里」 0954-43-7550
 - ものわすれメンタルクリニック 092-534-5151
- 〒815-0082 福岡市南区大楠2-19-20ピュアドームエレガント平尾3・4F